



大会長からの開催メッセージ

第5回日本予防理学療法学会学術大会
大会長 廣滋 恵一
(九州栄養福祉大学)

第53回日本理学療法学会学術大会の分科学会として、第5回日本予防理学療法学会学術大会を北九州市（福岡県）で開催できることに感謝申し上げます。

現在のリハビリテーション医療の一翼を担う理学療法は、旧労働福祉事業団（現：労働者健康安全機構）九州労災病院（北九州市）に始まり、50年の歴史のなかで疾病・障害と向き合い、疾患別・病期別の理学療法へと発展してきました。そして、理学療法士は運動を介入手段とする専門家として「疾病の重症化・再発予防」（3次予防）は勿論のこと、「疾病の発症予防」（2次予防）、「活力・健康増進」（1次予防）へと、まさにロケットのカウントダウンのように健康寿命の延伸に貢献する活動が「これからの時代」（次代）には求められてくると考えます。このような意味を含めて、学術大会テーマを「再発予防、疾病予防、健康増進への理学療法オペレーション」といたしました。オペレーションは手術という意味で身近な用語ですが、業務、管理、作戦などの意味もあり、「次代に向けて理学療法分野を切り開く」作戦会議や報告の場になればという期待を含めています。

企画内容については、特別講演では宮地元彦先生に「運動器の機能低下予防のための運動」を、山田実先生に「フレイルとサルコペニアに対する栄養・運動の効果」についてご講演頂きます。また、教育講演では海外招聘講師の Dr. LOW に「身体不活動と非感染性疾患（NCD）に対する予防戦略」について講演頂きます。パネルディスカッションでは、理学療法士以外の専門家による「勤労者世代を対象とした予防領域での多職種共同参画の模索と将来展望」について、また、理学療法士による「日本の予防理学療法領域が行うべき研究課題とその展望」をテーマに未来予想図を語っていただきます。シンポジウムでは、予防理学療法学会と関連が強く、専門的な介入が求められる産業理学療法部門と栄養・嚥下理学療法部門の代表運営幹事3名に「予防理学療法領域における産業・栄養・嚥下部門の活動から相互作用を見出す」ための情報共有と連携促進を図っていただきます。市民公開講座では「スロージョギング」で有名な田中宏暁先生による体験型講演を企画しています。この他にも、一般演題では多数のエントリーをして頂き、活発な議論が展開されるものと楽しみにしています。

このように、第5回日本予防理学療法学会学術大会では、多数の企画、演題から新規性ある柔軟な発想と可能性・科学性を追求し、理学療法士の新たな発展に向けた議論の場を目指します。準備委員会一同の思いと共に学術大会の開催趣意といたします。

平成30年3月6日